

森林パトロール通信

令和3年12月10日発行 第6号

木育体験を実施！ (管内の「こども園」から園児が木とふれあう)

金木支署では、子供から大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて、木材の親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動である「木育」を平成30年度から取り組んできました。本年度においても、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して、12月6日(月)から9日(木)までの4日間、管内の「認定こども園」等3園を対象として行いました。

富野こども園

本年度第1回目は、12月6日(木)「富野こども園」年長組14名が参加して行いました。

冒頭、簡単な注意事項を話し、絵本の「三匹のヤギのらがらどん」の寸劇を行い、寸劇終了後木製玩具で遊んでもらいました。

園児たちは、一斉に自分が好きな木製玩具に向かい、男の子には機関車、女の子には「ままごといっぱいセット」「クッキングセット」が人気がありました。びっくりしたのは、足げたを上手に乗りこなしている園児が多かったことです。約1時間ほど玩具で遊んだ園児たちは、プレゼントとして「色えんぴつ」をもらい、にこやかな表情で、帰りの送迎バスに乗って帰って行きました。(子どもたちの笑顔を見ていると、心が和みます。)



みどりの風こども園かなぎ

12月7日（火）と8日（水）は、「みどりの風こども園かなぎ」の園児（3歳児～5歳児）を、初日の7日（火）の午前は4歳児18名、午後は5歳児21名、二日目は3歳児11名が参加してくれました。

前日の「富野こども園」と同様、女の子には「ままごといっぱいセット」「クッキングセット」が人気でした。特に目を引いたのは、積み木で中に子供たちが入り、背の高さまで積み上げて喜んでいる姿が印象的でした。

午後の5歳児の子供たちから、木育会場に入った瞬間「木のおいがする。」「いいにおいだ。」との声も聞かれ、「三匹のヤギのがらがらどん」の寸劇終了後は、自分たちが好きな木製玩具に向かい遊んでいました。1時間ほど遊んだ後は、みんなで後片付けし、帰りには、プレゼントをもらって笑顔でバスに乗り込み園に帰って行きました。



二日目の8日（水）は、3歳児11名です。始まる前は3歳児でうまく遊べるか等心配していましたが、心配無用でした。ビックリしたのは、「三匹のヤギのがらがらどん」の寸劇終了後、女の子全員（6名）が一斉に「ままごといっぱいセット」「クッキングセット」に向かったことです。

また、ある女の子が「足げた」を乗り越えていたことも印象深かったです。

そして、お遊び終了後には、後片付けしてくれて、最後にはみんなで記念撮影しプレゼントをもらってバスに乗り込んでいきました。



金木幼稚園

「木育体験」の最終日は、12月9日（木）に「金木幼稚園」園児30名を対象に行いました。

○ひよこ・りす

木育玩具遊びの前に、「三匹のヤギのがらがらどん」の寸劇を行い、寸劇終了後には、子供たちから、「シクラメン」の花2鉢いただきました。その後、おもちゃ遊びに移りました。やはり、女の子には「ままごと いっぱいセット」「クッキングセット」が人気で、男の子「おはなし組木」「トントン」などが人気でした。



一人で静かに遊ぶ子、みんなでワイワイガヤガヤ遊ぶ子と、人それぞれですが、こうして子供たちが楽しんでいる姿を見ると、何故か優しい気持ちになります。

○きりん・ぱんだ

最終日の午後は、年中～年長の子供たち17名で、今までの中で一番賑やかでした。

最初の「三匹のヤギのがらがらどん」の寸劇に始まり、おもちゃ遊びと元気いっぱいに遊んでいました。



お遊び終了後は、みんなで後片付けして、プレゼントをもらい、バスに乗り込み帰園しました。

【編集後記】

平成30年度から始まった「木育体験」ですが、今の子供たちは、遊びといえば、テレビゲームなどが主流で、このように、木とふれあう機会が少なくなっています。

金木支署では、今後も継続して木とのふれあい活動等を通じて、子供たちの豊かな心を育てると共に、木の文化への理解を深めていきたいと考えています。